

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 八百津高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和7年2月20日(木) 14:25~15:50
- 3 開催場所 八百津高等学校 会議室
- 4 参加者 **【学校運営協議会委員】** (敬称略)
 - ・渡辺 隆正 (会長) 八百津中学校校長
 - ・山口 茂義 (副会長) 錦津コミュニティセンターきらり館長
 - ・上北 泰久 八百津東部中学校校長
 - ・千葉 智治 錦津小学校校長
 - ・宮ノ腰美ゆき 八百津町教育長職務代理者
 - ・武市 由紀子 八百津町教育相談アドバイザー
 - ・林 善次 同窓会長
 - ・土谷 成生 PTA会長
 - ・可児 琴音 八百津高校卒業生代表**【学校運営協議会オブザーバー】** (敬称略)
 - ・加藤 大博 岐阜県議会議員
 - ・金子 政則 八百津町長
 - ・社本 勝義 八百津町教育長
 - ・佐合 智尚 佐合食品専務**【岐阜県教育委員会】**
 - ・亀山 善弘 教育総務課
 - ・山下 良生 教育総務課**【可茂教育事務所】**
 - ・小野 由加里 教育支援課**【八百津町教育委員会】**
 - ・井戸 信介 教育主幹**【八百津高等学校】**
 - ・岩島 章雄 校長
 - ・小林 和豊 教頭
 - ・兼松 義治 学習支援部長 (教務主任)
 - ・井戸 礼子 生徒支援部長 (生徒指導主事)
 - ・吉井 賢吉 進路支援部長 (進路指導主事)
 - ・貝川 友子 記録

5 会議の概要（協議事項）

（1）令和6年度自己評価・学校関係者評価

意見1：デュアルシステム成果発表会で発表した生徒にとっても感動しました。本日発表した生徒の何人かは中学時代を知っています。中学時代は人前で話ができなかった子が多かったのですが、堂々とした生徒の姿を見て、私はなんて素敵なお学校なんだろうと思った。生徒たちは自分の弱さに気づいて、そこを何とかしたいと思ってデュアルに臨んでいる。それは一年生の時に、傍で寄り添った先生の支援によって、向き合えるようになった。自分のできないところは、なるべく見ないようにするのが当たり前で、それを人前で言うことなんてしたくないし、解決したいとも思わないが、先生方や企業の方々の支援で、そこを自覚したうえで、目標を持たせている。

コミュニケーション力は、大学を卒業した方たちにとっても課題であるが、今日、発表した生徒は、高校生の時に気付いて向き合うことができた。そして、助けてもらった企業の方に感謝する気持ちも持てた。彼らは幸せだと思う。

生徒が自ら気付いた困難を支援していけるところが八百津高校の良さだと思う。これからの学校は、これが必要とされている。八百津高校は、これが整っている。しかし、学校だけでは難しい。地域だったり、専門家と協力して生徒を支えていかなければならない。地域の若い力は、地域を活性化させてくれるので、大きな力となってくれれば嬉しい。

➡ 生徒による自主的運営を目指しつつ引き続き指導を行っていききたい。

意見2：中高連携については、八百津中の教員が高校の授業と一緒にやって、中学校の授業が高校にどうつながっていくかがわかり、大変良かったと言っていた。指導ではなく支援。家庭での様子、学習に対しても授業時間だけでなく、放課後等にも支援をしていただいたりとか、三つのクラスを四つに分ける、本当にその中でも学力差がある中で、丁寧に教えているという姿を知っている。

➡ 引き続き八百津高校の良さ、そして八百津高校独自のところを大事にし、情報発信していききたい。

意見3：八百津祭りには、来年度からは中学生もボランティアで参加させていただく。八百津高校の生徒といろいろな繋がりを作っていきたいと思っている。

➡ ボランティア活動においても引き続き募集をかけていききたい。

（2）来年度の学校運営について

意見1：スクールミッションについて「地域と連携・協働した学びを推進する連携型中高一貫教育を行う高校として誰一人取り残さないきめ細かな教育活動、仲間と共に取り組む活動を通して地域の活性化に貢献できる人材の育成を目指す学校」ということであるが引き続き生徒に寄り添ったご支援をお願いしたい。

➡ 次年度からも「誰ひとり取り残さない」をモットーに生徒に寄り添った支援を継続する。

6 会議のまとめ

- ・委員より本校への温かい示唆に富んだ意見が得られた。いただいた意見を参考にして、来年度の学校運営に向けて活かしていく所存です。